

## 放課後児童健全育成事業の量の見込みと確保方策の考え方について

## (1) 国の示す中間見直しの考え方

○学年ごとの利用率ベースの見直し。

○利用希望調査を行った場合は、その結果の利用。等

(参考：第二期市町村子ども・子育て支援事業計画等における「量の見込み」の算出等の考え方(改訂版)(内閣府、平成31年4月23日))

## (2) 考慮すべき事項

○R3のコロナ禍での利用控えに加え、R4は急激な利用増で継続率が急増。

⇒継続率のグラフがいずれの小学校区も高値となっている。

一過性のものか継続的なものかの判断が困難なため、継続率の結果は注意が必要。

○アンケート結果は、実際の利用状況より非常に高いがそのまま反映。

⇒実際の利用とは、誤差生じる可能性大。

○R4.4.1現在の人口で算出。地元小学校に実際に通学する児童は人口より少ない。

## (3) 小学校区ごとの分析 ～モデル推計から考察～

小学校区	現 状	整備の必要性(緊急度)
八幡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率、継続率、いずれの見込みも確保量内に収まる予測。</li> <li>・送迎支援で他学区受入れが多いが、これを考慮しても確保量内に収まる見込み。</li> </ul>	○ 現状で対応可能見込み
島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の小1利用率、アンケート結果とも非常に高い。</li> <li>・利用児童が年々増加。弾力化で島小を利用する学区外児童が増えている影響が大きいと考えられる。</li> <li>・毎年、各学年、最大25名を他学区から受入れ可。</li> <li>・現学童利用者のうち、弾力化通学の児童は31.8%</li> </ul>	△ 弾力化の動きを注視
岡山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児童は確保量を上回るが、学区外クラブを利用希望する児童が多く、これを考慮すると確保量内に収まる。</li> <li>・令和5年度以降は児童人口が急激に減少する見込み。</li> </ul>	○ 現状で対応可能見込み
金田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率見込は確保量通り。継続率見込は令和6年度以降不足の予測。</li> <li>・継続率見込の増加は、現小1利用率(44%)に比べ、4・5歳児のアンケート結果が高く出たため(5歳:54%、4歳:63%)。</li> <li>・今後、小1利用率が、アンケート結果通りとなれば不足。</li> </ul>	△ 今後の動向を注視
桐原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率見込はほぼ確保量通り。継続率見込は令和6年度以降不足の予測。</li> <li>・継続率見込の増加は、現小1利用率(43%)に比べ、4・5歳児のアンケート結果が非常に高く出たため(5歳:60.5%、4歳:75.7%)。</li> <li>・今後、小1の利用率が上がれば不足するが、小1利用率が60%までで推移すれば、当面は4クラブで吸収できる範囲。</li> </ul>	○ 現状で対応可能見込み

桐原東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点でも確保量超え。今後も利用率、継続率いずれの予測からも増加する見込み。</li> <li>・令和4年度小1利用率56%。市内でも高い割合。4・5歳児のアンケート結果も非常に高く(5歳児66.7%、4歳児67.4%)。今後さらに利用者は増える可能性大。</li> </ul>	△ 整備必要
馬淵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、小1の利用率が急増(R2:31%、R3:45%、R4:53%)。令和4年度利用児童が大幅増。現在、確保量を大幅に上回る受入れ状況。</li> <li>・アンケート結果は特に4歳児で高く(4歳児76.2%、5歳児55%)、今後も利用児童は増える可能性大。</li> </ul>	△ 整備必要
北里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、利用児童が増加。確保量を大幅に上回っている。</li> <li>・北里小近隣に200戸の住宅地完成、今後も利用増加見込み大。</li> <li>・現在、比較的利用率が低いですが、今後、他学区並みに伸びる可能性大。4・5歳児のアンケート結果は他学区並の結果。</li> </ul>	△ 整備必要
武佐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率見込は確保量より低く、継続率見込は大幅増。</li> <li>・小1利用率が増加。R2:40%、R3:38%、R4:52%。</li> <li>・アンケート結果は、5歳児52%だが、4歳児が66.7%と高い。</li> <li>・小1の利用率が50%以上で推移すると、確保量上回る。</li> <li>・現在、全校児童の22%が利用中。今後、利用率が上ががり、令和9年度の利用率が全校で30%なら49名、40%なら65名の利用見込みとなる予測。</li> </ul>	△ 今後の動向を注視。 遠からず整備必要か。
安土	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在4クラブが運営中で、それぞれ定員+αの受入れ状況。数年先までこの状況が続く予定。</li> <li>・継続率見込で推移すれば、確保量を最大36名上回るため整備必要。</li> <li>・令和10年4月、小学校移転予定。新安土CA内に公設学童の新設予定。</li> </ul>	△ 今後の動向を注視。
老蘇	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小1利用率が近年急増。R2:41%、R3:57%、R4:66%。</li> <li>・アンケート調査も5歳児80%、4歳児61.9%と非常に高い。</li> <li>・小1利用率が60%で推移しても、数年は60名を超える利用見込みとなる予測。</li> </ul>	△ 整備または拡張が必要

### (3) 確保方策の方法

○整備の必要性(緊急度)により、早急に確保を検討。

○確保方策については、新設または拡張など、地域の実情に応じて公募や既存施設の活用を検討する。

○公募しやすいように「放課後児童クラブ用物件マッチング事業」を実施。